

SOGIと社会階層

※本報告はワシントン大学Harry Bridges Center for Labor Studies研究助成金、日本経済研究センター研究奨励金、JSPS科研費16H03709「性的指向と性自認の人口学－日本における研究基盤の構築」による成果の一部である

平森 大規

法政大学グローバル教養学部

日本人口学会第74回大会
2022年6月12日@神戸大学

導入：SOGIと社会階層研究の動向

- 性的マイノリティに対する学術的・社会的関心の高まり
 - LGBTQ人口割合
 - SOGIに基づく社会経済的不平等
- 欧米諸国（北米・西欧）では大規模無作為抽出調査や国勢調査等を利用した性的指向と賃金に関する研究が近年増加
- 既存研究の4つの限界点
 1. 性的指向と賃金以外の指標（教育達成や職域分離）に関する研究が少ない
 2. 性的指向と賃金に関するほとんどの既存研究は労働経済学者によるものであり経済学的視点が前提となっている
 3. 欧米諸国の調査データを利用した研究がほとんどである
 4. （性的指向と社会経済的不平等に関する研究に比べて性自認のあり方と社会経済的不平等に関する研究は圧倒的に少ない
※本報告の元となっている論文では性的指向を主要な分析軸として設定しているため、この点についてはそれほど強調されていない）

本研究の意義：SOGIと社会階層

- 既存研究の4つの限界点
 1. 性的指向と賃金以外の指標（教育達成や職域分離）に関する研究が少ない
 2. 性的指向と賃金に関するほとんどの既存研究は労働経済学者によるものであり経済学的視点が前提となっている
 3. 欧米諸国の調査データを利用した研究がほとんどである
 4. （性的指向と社会経済的不平等に関する研究に比べて性自認のあり方と社会経済的不平等に関する研究は圧倒的に少ない）
- これらの限界点を超える意義
 1. 教育は賃金格差に強く影響している、職業（職種）は世帯外における最も重要な社会経済的役割のひとつである
 2. 個人による自発的な行動レベルの説明を超えた社会構造による外的拘束の要素を考慮に入れた社会学的視点が重要である
 3. 比較研究の視点（制度的配置の考察）を取り入れることが重要である
 4. （性自認のあり方に基づく社会経済的不平等は社会的に注目を集めている）

本研究の問い：SOGIと社会階層

- これらを踏まえ、本報告の元となった論文では、
 1. 性的指向（および性自認のあり方）と3つの社会経済的不平等の指標の関連性を検討した
 - 教育達成（大卒割合）
 - 職業分離（職業（職種）、雇用形態、企業規模）※性的指向のみ
 - 賃金格差（1時間当たりの賃金）
 2. 検討にあたっては、社会学的視点から分析の考察を行った（とりわけ社会学者Mary C. Brintonによる社会=制度的視点）
 3. 日本という非欧米社会で行われた「**大阪市民調査**」を利用した
 4. （性自認のあり方についても分析に組み込んだ）
- 時間の関係上、本日は**SOGIと賃金格差**の分析結果に絞って報告

留意点：

- 分析結果は日本全国に一般化できない
- 性的マイノリティ該当者（特にトランスジェンダー）が少ないため、多くの結果はあくまで示唆的なもの

SOGIと賃金格差：7つのモデル

- これらを踏まえ、本報告の元となった論文では、7つのモデルを作成した
- 1. 性的指向のみ
- 2. + 人口学的統制変数
 - 性自認のあり方（トランスジェンダー）、国籍（非日本人）
- 3. + 世帯構造
 - 配偶者・パートナーの有無、18歳未満の子どもの数
- 4. + 人的資本
 - 教育、潜在経験年数（年齢 - 教育年数 - 5）
- 5. + 実経験変数（- 潜在経験年数）
 - 教育、実経験年数
- 6. + 企業特殊的人的資本
 - 勤続年数
- 7. + 労働市場における「ポジション」
 - 職業（職種）、雇用形態、企業規模

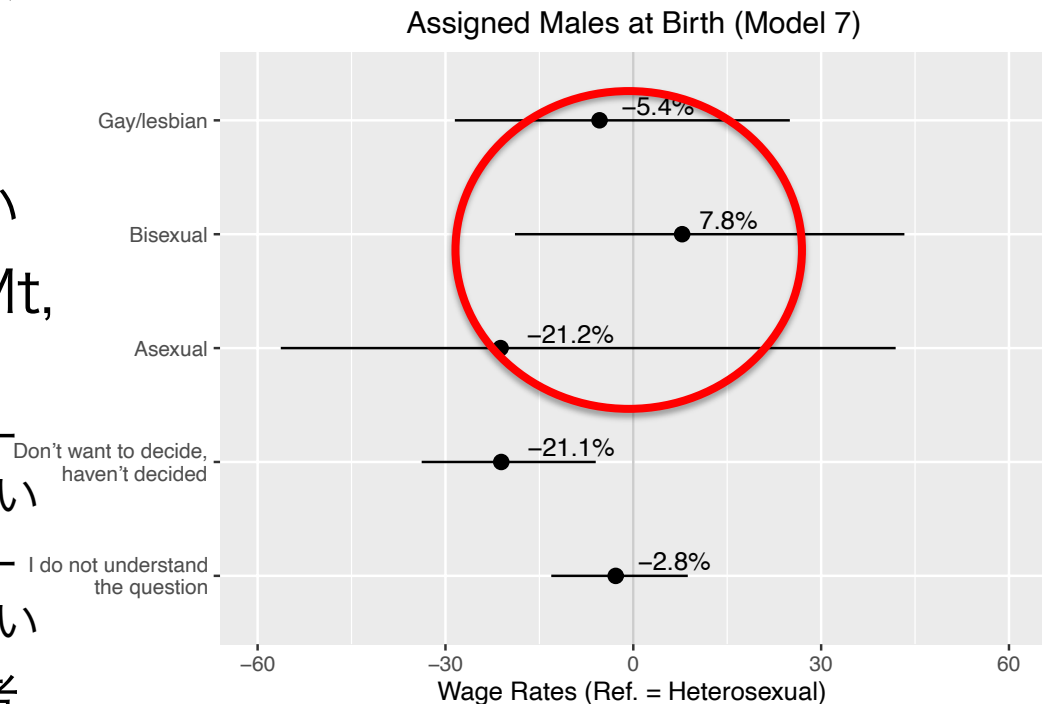
SOGIと賃金格差（出生時女性の結果：モデル7）

- 同性愛者（n=6）、無性愛者（n=14）の賃金は異性愛者と同程度
- 両性愛者（n=27）の賃金は異性愛者よりも低い
- トランスジェンダー（Ft, n=11）：
 - モデル2：シスジェンダー女性と比較して24.4%高い
 - モデル7：シスジェンダー女性と比較して15.7%高い
- 性的マイノリティ回答者が少ないため、結果の解釈には注意が必要



SOGIと賃金格差（出生時男性の結果：モデル7）

- 同性愛者（n=15）、無性愛者（n=4）の賃金は異性愛者よりも低い
- 両性愛者（n=15）の賃金は異性愛者よりも高い
- トランスジェンダー（Mt, n=6）：
 - モデル2：シスジェンダー男性と比較して15.0%低い
 - モデル7：シスジェンダー男性と比較して35.9%高い
- 性的マイノリティ回答者が少ないため、結果の解釈には注意が必要



まとめ：さらなる調査研究の発展に向けて

- 日本の量的調査における想定：
 - 調査の回答者=シスジェンダー異性愛者
 - 性的マイノリティの不可視化
- 本報告の学術的意義：
 - 「見えない」存在として周縁化されてきた性的マイノリティを人口集団（population）として捉える
- 本報告の社会的意義：
 - 性的マイノリティの生活実態を把握
 - 性的マイノリティに関する施策を行う際の基礎資料として活用
- 今後の課題
 - より多くの大規模無作為抽出調査で「年齢」や「居住地域」などのように社会人口学的属性要因としてSOGI設問を導入
 - 性的マイノリティ内部での差異
 - 性的マイノリティの数量化に関する批判的考察

- 本報告の内容を引用する際は以下をご利用ください
- Hiramori, Daiki. 2022. Sexuality Stratification in Contemporary Japan: A Study in Sociology (現代日本におけるセクシュアリティ階層——社会学的研究) . PhD dissertation, Department of Sociology, University of Washington.
<http://hdl.handle.net/1773/48558>